

	2008.6 116号	発行：岡山地方気象台防災業務課 住所：岡山市桑田町1-36 電話：086-223-1334
---	--------------------	---

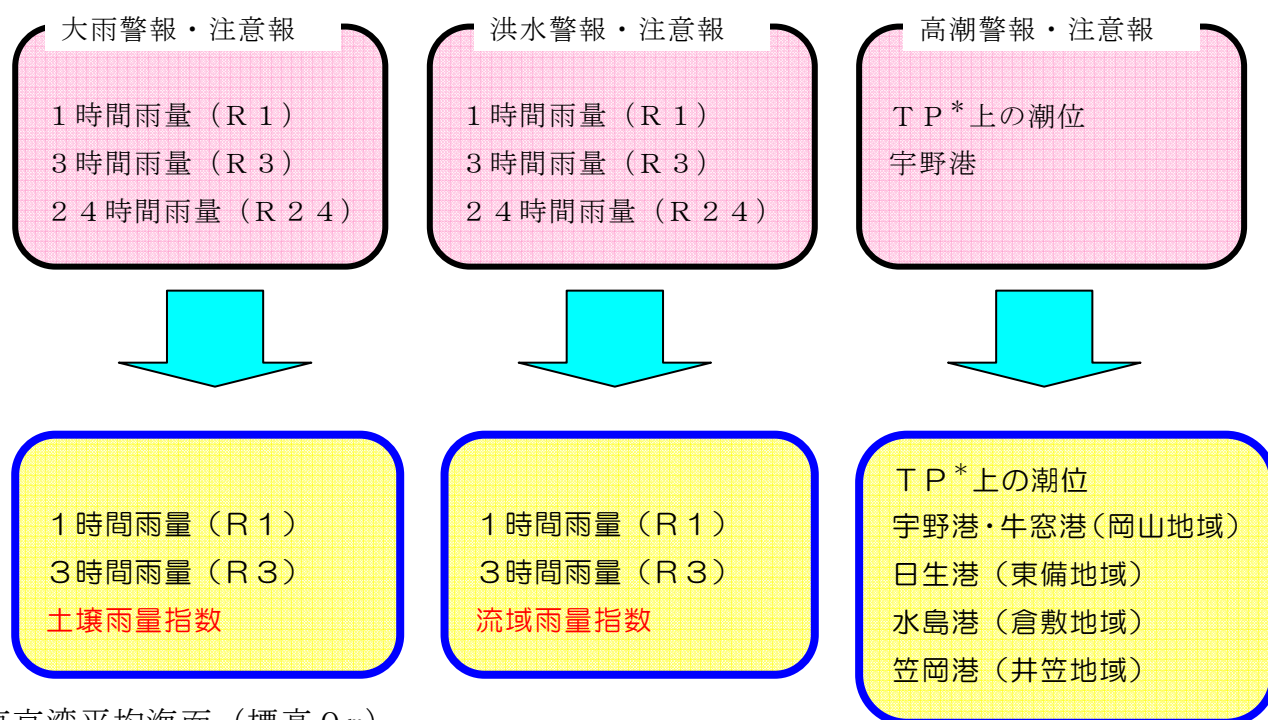
大雨及び洪水警報・注意報等の改善について

平成20年5月28日（水）より、大雨及び洪水警報・注意報、高潮警報の基準を変更し、気象災害時の避難勧告等により有効に活用できるよう改善を行いました。

大雨警報・注意報については、地上に降る雨の量で算出した指標である24時間雨量に代えて、土壌中に貯まっている雨の量に基づき、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標である「**土壌雨量指数**」を導入し、避難準備等への活用を目指した防災情報として発表します。

洪水警報・注意報については、対象区域に降る雨の量で算出した指標である24時間雨量に代えて、流域の雨の量に基づく指標である「**流域雨量指数**」を導入することにより、水害発生の危険性をより高い確度でとらえられるようにします。

高潮警報については、防潮堤等の高さに基づき全国的に基準を見直しました。岡山県ではこれまで宇野港でのTP*上潮位のみを基準としていましたが、牛窓港・日生港・水島港・笠岡港を加え、避難勧告等への活用を目指した防災情報として発表します。

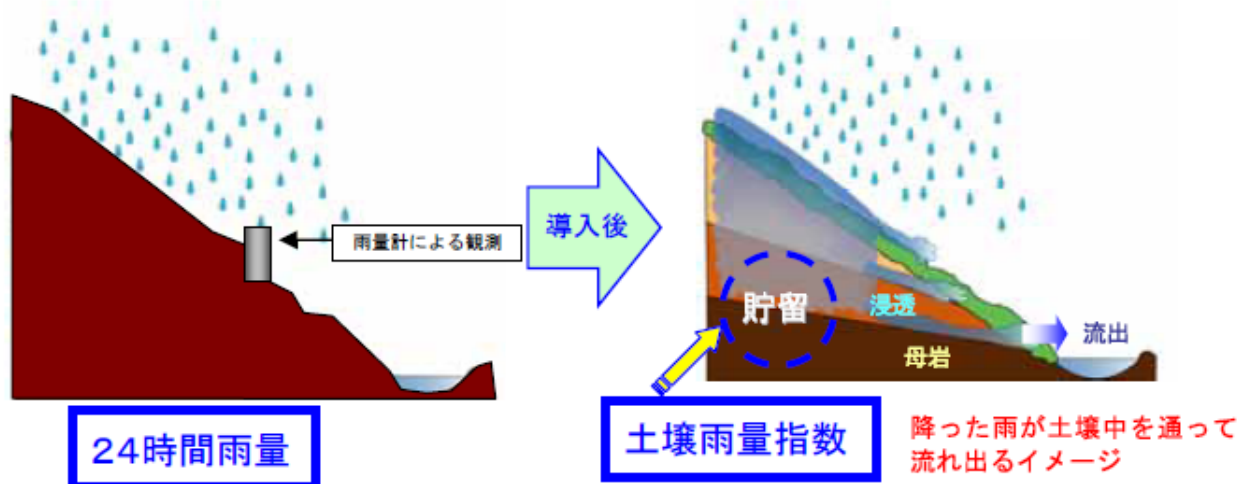


*東京湾平均海面（標高0m）

気象庁は、防災対策においてより有効に活用されることを目指し、これらの指標を用いて平成22年度出水期から市町村を対象とした警報・注意報の発表を計画しています。

<土壌雨量指数の導入>

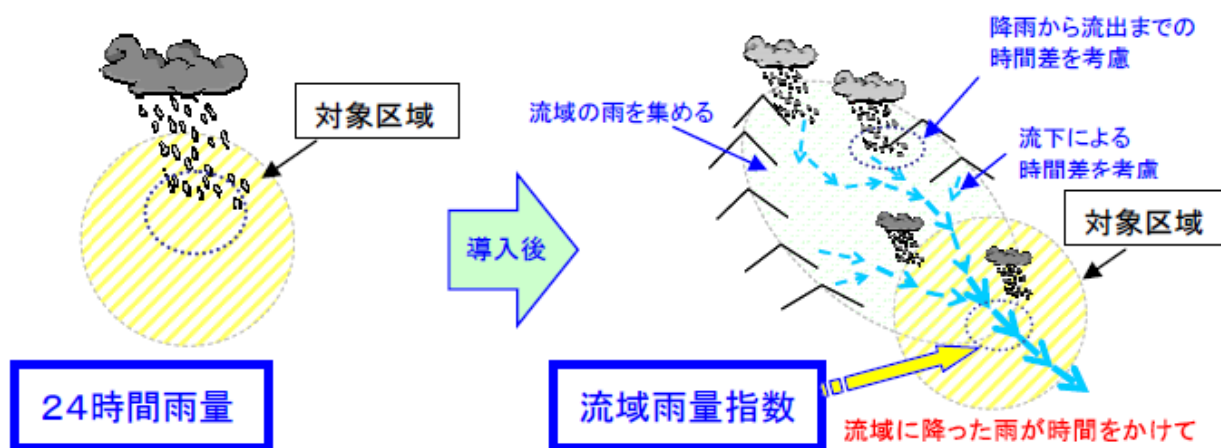
地上に降る雨の量で算出した指標である 24 時間雨量に代えて、土砂災害発生の危険性を示す指標である土壌雨量指数を導入します。土壌雨量指数は、土壌中に貯まっている雨の量をタンクモデル※を用いて計算した指数です。



※昨年4月から運用開始している『土砂災害警戒情報』は既にこの土壌雨量指数を導入しています。

<流域雨量指数の導入>

対象区域に降る雨の量で算出した指標である 24 時間雨量に代えて、洪水災害発生の危険性を示す指標である流域雨量指数を基準に導入します。流域雨量指数は、タンクモデル※を用いて流出量を計算し、さらに傾斜に沿って集まる水の量を指数化したものです。



※ タンクモデルは、浸透や流出を考慮したタンクを3つ重ね、降った雨が「地中に浸み込む過程」、「流出過程」をモデル化したものです。解析雨量と降水短時間予報による雨量を基に、5 km格子単位で計算します。